

紀の川市長期総合計画審議会委員からの意見

調査・審議事項	内容	ご意見	事務局対応
本市を取り巻く現状について	1. 人口の状況	世帯数の推移のデータはありませんでしょうか。高齢者のみの世帯のグラフ等もあり増加傾向にあることは理解できるのですが、空き家の状況、住宅の状況を推し量る上で基本的な情報ではないかと思っておりますので、お示しいただけるとよいかと思っております。可能であれば、5つの地区ごとの推移も拝見できると安心です。ご検討いただければ助かります。	データで見る紀の川市の姿(追加分)P1 地区ごとの推移はありません。
本市を取り巻く現状について	1. 人口の状況 6p	これまではおおむね転入超過であったことがわかりますが、6pのグラフを見る限り、20代の転出傾向は激しくなっていますが、2010-2015年は40代と70代ぐらいに若干の増加が見られますが、かつてほどの増加は見られないことが見てとれます。留意すべき課題かと思っております。(以上、意見ですが、可能であればどうしてこのような傾向になっているのか、背景として考えられることをお聞かせいただけるとよいかと思っておりますが、いかがでしょうか?)	10代後半から20代にかけて転出超過となっているのは、高校卒業後の進路(進学、就職)が原因であると分析しています。40代、70代の傾向については、原因を分析できていません。
本市を取り巻く現状について	年齢区分別社会増減の推移 6p	30代~40代前半の住宅取得が転入超過となる背景とのことであり、現況今後の転入者への住宅取得優遇施策は如何	45歳未満の住宅取得者に対し30万円の奨励金を交付する制度があります。(こどもがいる場合、転入の場合加算措置あり) 今年度対象者を40歳未満から45歳未満に緩和しました。
本市を取り巻く現状について	1. 人口の状況 12-13p	5地域の人口推移のグラフ、各地域の特徴が出ており非常に興味深いです。特に桃山地域については、高い老年人口割合になっていますが、人口の減少傾向は穏やかで持続可能な構造になっているように見受けられます。紀の川市全体の今後を考える上でも参考になるのではと思います。産業や宅地開発の状況などが影響していると推察されますが、そのような理解でよいでしょうか。	桃山地域は、有数の桃の産地であり、また製造業が工業団地に立地するなど域外からお金を獲得できる産業があること、また地域内には山間地が多いことから、平野部に開発が集中しやすいことなどの影響で、人口減少割合は比較的穏やかであることが推計されています。ただ、最近では銀行の支店が撤退するなど、生活の利便性の低下を招きつつあります。
本市を取り巻く現状について	外国人住民の推移 14p	今後の人口増の鍵を握る外国人の居住支援や就労支援、子どもの教育支援の施策の現状を知りたい	入管法の改正や生産年齢人口の減少により外国人が増えていると考えられますが、現在は特に外国人を対象とした支援はありません。今後の課題として検討していく必要があると考えます。
本市を取り巻く現状について	人口の状況、外国人住民の推移 14p	2015年→2020年で約1.5倍になっています。これからも増加が予想されます。地域の生活者として行政の受け入れ姿勢が大切であると思っております。ダイバーシティアンドインクルージョンが実践されイノベーションが起こる紀の川市であってほしいと思っております。	
本市を取り巻く現状について	病院数、病床数 29p	だれもが安心して住み続けるために、病床数の増床と医師の確保が必要だと思っております。コロナ禍で一層難しいと思っておりますが、早急な対応を願います。	医師の確保については、県を通じて、県立医大などに対し要望していきたいと思っておりますが、難しい状況であると理解しています。
本市を取り巻く現状について	人口の状況、病院数、病床数 29p	高齢化と少子化に伴い人口が減少していることは残念ですが、子育て世代に選ばれていることはうれしいことです。これからの子育て世代が市内で安心して出産できるよう那賀病院の分娩再開が待たれます。	

調査・審議事項	内容	ご意見	事務局対応
本市を取り巻く現状について	国民健康保険加入世帯率 30p	一人当たりの診療費につき、他の市町村等比較したデータがあれば教えていただきたい	データで見る紀の川市の姿(追加分)P2
本市を取り巻く現状について	子育て・教育について	県内比較団体や他府県の先進自治体と紀の川市の子育て支援・優遇策を比較した資料の作成をお願いしたい	(子育て支援・優遇策参照)
本市を取り巻く現状について	4. 施策分野別の状況 (子育て・教育) 34p	共働き家庭数の推移ですが、毎年データになっていますので国勢調査ではないのではないかと思います。表記についてご確認ください。	34ページの資料につきましては、核家族の割合の推移については国勢調査から、共働き家庭数の推移については総務省労働力調査からデータを引用しています。
本市を取り巻く現状について	4. 施策分野別の状況 (産業・交流) 51p	年齢階級別農業就業者比率と平均年齢のグラフ、55歳以上の青い凡例となっている3階級の違いがほとんど判読できません。凡例の色について見やすいように修正いただけませんか。ご検討いただければと存じます。	今後は配色についても考慮します。
本市を取り巻く現状について	4. 施策分野別の状況 (都市基盤・生活環境) 53、55p	可住地面積あたりの人口密度が低いのが紀の川市の特徴であり課題であることを理解しました。用途地域の指定をされたところですが、特定用途制限地域における土地利用のあり方も課題になっているように感じました。用途だけでなく、開発を誘導するところとそうでないところを穏やかに誘導するような対策は考えられないでしょうか(たとえば、県と連携しながらになるかと思いますが、兵庫県の「緑豊かな地域環境の形成に関する条例」のようなことは考えられないでしょうか)。	令和2年4月から用途地域を指定しています。今後の開発については、無秩序な開発ではなく、計画性を持った開発(都市計画)が必要であると考えています。
本市を取り巻く現状について	用途地域等について	農地が広い紀の川市において住宅を新たに建てにくい土地政策となっていないか	農地を守っていくことも、住宅を建てやすく市の人口を増やしていくことも大切なことです。 都市計画の用途地域に指定されている地域については、農業振興地域から除外しています。農業振興地域内における農用地の場合は、農振地域の除外申請、農地転用の手続が必要となります。 なお、令和4年度には農業振興地域整備計画の全面見直しを予定しています。
本市を取り巻く現状について	都市基盤・生活環境	下水整備・普及率はどうなっているか	本市の下水道普及率は、県平均を下回っていますが、合併浄化槽を含んだ汚水処理については、県平均を上回っています。 (追加分P3)
本市を取り巻く現状について	2pの男性のグラフの2020年	全て足すと100.1%となるのはどうしてか	四捨五入、端数処理の関係で合計が100にならない場合があります。

紀の川市長期総合計画審議会委員からの意見

調査・審議事項	内容	ご意見	事務局対応
市民アンケートの素案について	高校生世代を対象としたアンケート	<p>①アンケートの項目を変更してはどうか 問5→問2→問1→問3→問4</p> <p>②問2の次に得意な科目を入れてはどうか (次の就きたい職業の理由付けになるため)</p>	<p>①問1(答えやすい質問)を最初、問5(個人属性)を最後に持つてくることでより多くの回答をいただける動向があり、データ解析の際の回答に対する相関・関連にも反映するためこの順番通りとします。</p> <p>②得意な科目の質問は確かに就きたい職業の理由付けになるかもしれませんが、本アンケートの趣旨は市の課題を見つけ出すため実施するものであり、この質問から市の課題につながるとは考えにくく、高校生の将来については「問3. の定住意向について」でカバーできるものと考えます。</p>
市民アンケートの素案について	高校生世代を対象としたアンケート	<p>将来(就職)について、分類はもう少しフラットなほうがいいのではないかと。 スタディサプリの内容などを入れるのはどうか。</p>	<p>スタディサプリの内容では、具体的な職名となっていますが、ここでどのような業種に就きたいかを確認したいと考えています。選択肢は、日本標準職業分類を参考にしています。</p>
市民アンケートの素案について	若者世代を対象としたアンケート	<p>アンケートの項目を変更してはどうか 問5→問3→問1→問2→問4</p>	<p>上記ご意見①と同じ対応とします。</p>
市民アンケートの素案について	高校生世代を対象としたアンケート 若者世代を対象としたアンケート	<p>紀の川市の情報発信をどうすればよいかを問いかけてはどうか</p>	<p>市政や行事等の情報に関する調査については、例年実施している市民意識調査で調査しており、そちらの調査結果を利用します。</p>
市民アンケートの素案について	アンケート結果とその対応方法	<p>各分科会への上程の仕方やその手法は</p>	<p>分科会ではなく、全体の審議会で集計した結果を報告します。</p>
市民アンケートの素案について	活用について	<p>第2次紀の川市長期総合計画のp136に結果が示されていますが、計画全体への反映、活用される点についてお教えてください。</p>	<p>アンケートの結果から市の課題を拾い出し、人口減少に歯止めをかけ、持続可能な紀の川市となるような施策を計画します。</p>

子育て支援・優遇策

	紀の川	和歌山	海南	橋本	有田	御坊	田辺	新宮	岩出
産後ケア(訪問型)	○	×	×	×	×	×	×	×	×
新生児の聴覚検査	○	×	×	×	×	×	×	×	○
主食費無料化	×	×	○	×	×	×	×	×	×
副食費無料化	×	×	○	×	×	×	×	×	×
育児用品支給	○	×	×	×	×	×	×	×	×
ファミリーサポートセンター	○	○	○	○	○	○	○	○	○
学童保育の実施	○	○	○	○	○	○	○	○	○
病児保育	○	○	○	○	○	○	○	×	○
こども医療費の無料化	中学まで	中学まで※	中学まで	中学まで※	18歳まで	18歳まで※	中学まで	中学まで	中学まで※
中学校給食無償化	R4.4～5年間	×	×	×	×	第3子以降	×	検討中	×
小学校給食無償化	R4.4～5年間	×	×	×	×	第3子以降	×	検討中	×
小学校少人数学級(35人)	1・2年生のみ	1・2年生のみ	1・2年生のみ	1・2年生のみ	1・2年生のみ	1・2年生のみ	1・2年生のみ	1・2年生のみ	1・2年生のみ
中学校少人数学級(35人)	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※和歌山市、橋本市のこども医療費は、所得制限あり。

※御坊市のこども医療は、婚姻しているものは対象外。

※岩出市のこども医療は、小中学生の通院は1/3自己負担あり。